

一般

平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

評価対象事務事業名	ワークショップ開催事業			事業コード	2108
担当課等	所属名	市長公室 行政経営課	担当係名		
	課長名	村上 秀樹	担当者名	穴戸 秀樹	電話番号

1. 事務事業の基本情報

総合計画体系	施策の柱	信頼される質の高い行政	コード 8	施策	市民とともにつくる行政の実現	コード 3
	基本事業	市民参加の推進	コード 3	関連予算 費目名	一般会計 2款 1項 6目 自治体経営推進事務(013-01)	
	特記事項					
事業期間	<input type="radio"/> 単年度 <input type="radio"/> 単年度繰返 <input checked="" type="radio"/> 期間限定複数年度 ⇒ (17年度 ~ 26年度)					
事務事業の概要	<p>市が取組んでいる行政評価システムを市民に理解していただくとともに、市民の声が反映されたより良いシステムへと改善していくため、「成果指標」の設定作業をワークショップ形式により行う。</p>					
根拠法令等	盛岡市自治体経営の指針及び実施計画					
この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)						
<p>第一次行革の取組みが開始された平成16年度に、行財政構造改革へ市民の意見を反映させることを目的に『市の仕事・市民との協働を考えるワークショップ』を開催。この趣旨を受継ぎながら、翌17年度からは、行政評価システムの成果指標を考える現在の形で実施することとなり、現在に至る。</p>						
この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか						
<p>平成18年3月議会において、市民意見を反映させた成果指標の検討状況について、報告を求める質問が出された。 盛岡市行財政構造改革推進会議からは、「参加者が少なく、これをもって市民意見が反映されたといえるかどうか疑問である」旨意見が出されている。 平成21年12月議会において、市民へ周知方法、参加者が少ないことなどについて質問が出された。 盛岡市自治体経営推進会議からは「日ごろ市の施策や事業に関わる機会が少ない人にとってはよい社会勉強となる。」という意見が出されている。</p>						
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどうか変化したか。今後の見通しはどうか						
<p>行政評価への市民の参画については、各自治体において関心が高まっているところである。そうした中、成果指標を市民とともに考える趣旨のこの事業は、ユニークかつ有効な取組みとして、他自治体、研究者等から高い評価を得ているところでもあり、このような取組みのニーズは拡大傾向にあると思われる。 また、この取組みも含めた当市の行政評価の取組み全般について、平成22年1月に総務省が発行する『地方行政改革事例集』に優良取組み事例として選定された。</p>						

2. 事務事業の実施状況(Do)

①対象 (誰を、何を対象としているのか)	市民 行政評価システムの施策の成果指標	⇒	②対象指標 (対象の大きさを示す指標)	A. 市民の数 B. 施策の成果指標数 C.	単位 人 単位 件 単位 件
③手段 (事務事業の内容、やり方、手順)	<p>22年度実績(22年度に行った主な活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開催の告知(広報、ホームページ、市内に事務所を置くNPO等への通知、市民アンケートへのチラシの折込) ○ワークショップの開催 ○成果指標のアイデアの採用可否の検討 <p>23年度計画(23年度に計画している主な活動)</p> <p>22年度と同様</p>	⇒	④活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)	A. チラシの配布数(関係団体への通知を含む) B. ワークショップ開催回数 C. ワークショップで出された成果指標のアイデアの数	単位 枚 単位 回 単位 件
⑤意図 (この事業により対象をどのように変えるのか)	市が取組んでいる行政評価システムを市民に理解していただくと共に、市民の声が反映されたより良いシステムへと改善する	⇒	⑥成果指標 (意図の達成度を示す指標)	A. 成果指標として採用された件数(累計) 【指標の性格: ● 上げる ○ 下げる ○ 維持する】 B. ワークショップへの延べ参加者数 【指標の性格: ● 上げる ○ 下げる ○ 維持する】 C. 【指標の性格: ○ 上げる ○ 下げる ○ 維持する】	単位 件 単位 人 単位 件
⑦結果 (上位基本事業の意図、上位の基本事業にどのように貢献するか)	自主的にまちづくりの一翼を担う	⇒	⑧上位成果指標 (上位基本事業の成果指標)	協働事業の件数(単位:件)	

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	目標年度 目標値
対象 指標A	市民の数	人	297,592	297,267	297,267	298,148	298,148	298,148	26年度 -
対象 指標B	施策の成果指標数	件	91	94	96	96	98	98	26年度 -
対象 指標C									年度 -
活動 指標A	チラシの配布数(関係団体への通知を含む)	枚	3,108	3,130	3,130	3119	3120	3120	26年度 -
活動 指標B	ワークショップ開催回数	回	2	2	2	2	2	2	26年度 -
活動 指標C	ワークショップで出された成果指標のアイデアの数	件	125	115	150	121	150	150	26年度 -
成果 指標A	成果指標として採用された件数(累計)	件	41	60	65	65	70	70	26年度 -
成果 指標B	ワークショップへの延べ参加者数	人	52	39	60	44	60	60	26年度 -
成果 指標C									年度 -

⑩事務事業に係る事業費

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	*****
事業費	A	千円	0	0	0	0	0	0	*****
財源 内訳	④国	千円							*****
	⑤県	千円							*****
	⑥地方債	千円							*****
	⑦一般財源	千円	0	0	0	0	0	0	*****
	⑧その他	千円							*****
	合計(④~⑧)(=A)	千円	0	0	0	0	0	0	*****
	延べ業務時間数	時間	150	150	150	300	300	300	*****
	職員人件費(B)(臨時職員賃金は、事務費に含む)	千円	600	600	600	1,200	1,200	1,200	*****
	トータルコスト(A)+(B)	千円	600	600	600	1,200	1,200	1,200	*****

3. 事務事業の評価(See)

必要性評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 結びついている	理由: この事業は、施策の成果を測る指標に市民の意見を直接取り入れるものであり、上位基本事業の意図に直結するものである。
	② 公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか？ 税金を使って達成する目的ですか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 妥当である	理由: 市が、市民から意見を頂戴する場を、積極的に設ける趣旨で実施しているものである。 「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他
	③ 対象の妥当性 対象の設定は現状のままでもいいですか？ 広げられませんか？ また絞らなくてよいですか？	<input type="radio"/> 拡大または絞る余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	理由: 行政評価システムへ市民意見を反映させるという意図からは、対象を成果指標以外の事項に広げることも考えられるが、これまでの取組みが一定の成果を得ている点、全41施策について順次実施する当初の計画の進行過程にある点を考慮すれば、当面は現状で妥当である。 「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他
	④ 意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりして、成果向上できませんか？	<input type="radio"/> 拡大または絞ることができる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	理由: この事業は、行政評価システムへの市民の理解を深めることと、市民意見を市政へ反映させることを同時に狙うものであり、現状で妥当である。 「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input checked="" type="radio"/> その他
有効性評価	⑤ 成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 向上余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 向上余地がない	その内容: 参加者が増えることにより、行政評価システムへの市民の理解が深まるとともに、多様な意見のもとに活発な議論がなされ、より精度の高い成果指標が設定されることが期待される。
	⑥ 廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか？	<input type="radio"/> 影響がない ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 影響がある	その内容: この事業を廃止した場合、市民参画・市民協働の直接的機会が減ることとなるため。
	⑦ 類似事務事業との関係 類似の事務事業(国、県、市の内部、民間)はありますか？	<input type="radio"/> 類似事業がある <input checked="" type="radio"/> 類似事業がない	事業名: _____ ※類似事業がある場合、その事務事業と統廃合又は連携を図ることにより成果向上はできませんか？ 統廃合・連携検討 <input type="radio"/> できる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> できない 理由: _____
効率性評価	⑧ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を節減できる余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない	理由: 事業費は、模造紙、ポストイット、サインペン等の消耗品費のみであり、削減の余地はない。
	⑨ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない	理由: ワークショップにおいては、職員がグループワークの進行役として張り付いており、現状程度の参加者数がある限り、人件費の削減余地はない。
公平性評価	⑩ 受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 公平・公正である <input checked="" type="radio"/> 特定の受益者はいない	理由: _____
	⑪ 費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 公平・公正である <input checked="" type="radio"/> 特定の受益者はいない	理由: _____

4. 事務事業の改革案(Plan)

改革／改善方向	<p>①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など) ※複数ある場合は、代替案その1、代替案その2とすること 平成20年度から市民アンケート3,000名の送付時にチラシを同封しており、以前に比べて参加者が増えているが、まだ少ないとの指摘を受けている。引き続き、事業の周知方法などについて検討・見直しを行う。</p> <p>②改革、改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか？ それをどう克服していきますか？ (関連部門や全庁的な調整の必要性、トップへの要望も含む) 市広報・ホームページでの告知、関係団体への直接の案内のほか、開催日時を休日に設定するなど、参加者を増やすため、様々な工夫をしてきたが、大きな効果は得られていない。地道な広報活動と運営方法についての不断の見直しにより、認知度の向上、参加者の増加を図る。</p>
---------	---

5. 課長意見

一次評価	<p>(1)一次評価者としての評価結果</p> <table border="0"> <tr> <td>① 必要性</td> <td>● 妥当</td> <td>○ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>○ 妥当</td> <td>● 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>● 妥当</td> <td>○ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>● 妥当</td> <td>○ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 必要性	● 妥当	○ 見直し余地あり	② 有効性	○ 妥当	● 見直し余地あり	③ 効率性	● 妥当	○ 見直し余地あり	④ 公平性	● 妥当	○ 見直し余地あり	<p>(2)全体総括(振り返り, 反省点)</p> <p>自治体経営の指針において、多様な主体が協働するまちづくりの推進を掲げているが、ワークショップは、市民と直接意見交換できる場であり、多くの市民が参加することで、行政評価システムの周知と改善に結びつくことから、さらなる参加者増に取り組む必要がある。</p>
① 必要性	● 妥当	○ 見直し余地あり												
② 有効性	○ 妥当	● 見直し余地あり												
③ 効率性	● 妥当	○ 見直し余地あり												
④ 公平性	● 妥当	○ 見直し余地あり												
今後の方向性と改革改善案	<p>(3)今後の事務の方向性(改革改善案)</p> <table border="0"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 終了</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 継続</td> <td rowspan="2"> <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 </td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 廃止</td> <td><input type="checkbox"/> 休止</td> </tr> </table>		<input type="checkbox"/> 終了	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止							
<input type="checkbox"/> 終了	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携												
<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止													
														
<p>方向付けの理由と改革改善の内容</p> <p>協働のまちづくりに資する事業であり、広報手段の工夫に加え、参加してみたいくなる内容の工夫が求められる。</p>														